

初動 DMAT 活動

長岡赤十字病院 第一医事課 土田 宏昭

～～～状況を自分で検討・判断し準備できるよう、日々精進していきたい。～～～

震災当日に初動 DMAT として出動し、まずは福島、そして宮城県内で活動した。原発事故で福島を離れる際、心苦しくて避難者の方々の顔を見ることができなかった。状況把握のために支部・病院だけでなく、全救護班で連絡を取り合ってもいいのではないか？

震災当日、初動 DMAT として活動を行った時の報告を行いたい。

14 時 46 分 発災。

16 時 32 分 病院を出発。DMAT メールによる参集拠点となった福島県立医大を目指す。(発災後 2 時間以内に出発できたことは、良かったと思う。)

22 時 40 分 福島県立医大に到着。先着した統括 DMAT の新潟市民病院の指示のもと、本部支援。福島県内の病院等へ電話をかけ、情報収集し、広域災害救急医療情報システムへ入力を行う。

0 時 35 分 南相馬市立総合病院から患者搬送の依頼があり、当院を含め 3 チームが担当。

模擬患者を訓練で体験したが、実患者を乗せて搬送することは初めてだった。まして、夜間、知らない道、街灯も消え、車のヘッドライトだけが頼りの中の運転は、非常に緊張した。

翌朝、食料を探しに福島市内のコンビニを覗くがまったく食料はない。朝食はほとんど食べていなかった。朝の時点で DMAT の活動はあまりなかったため、支部や病院と連絡をとり、ニーズを探し、10 時に DMAT から日赤救護班へ転換し、福島県新地町役場に向かうことになる。役場に向かう途中のコンビニにも食料はない。役場に到着し、救護所を立ち上げ、新地町内で巡回診療を開始。

16 時 20 分 第一原発 1 号機が爆発したかもしれない、と役場から連絡を受け、対応を協議し、周辺避難所から戻り、その場を離れ、宮城県白石市役所へ向かうことになった。後片付けがとても心苦しかった。避難者の顔が見られなかった。

宮城県白石市役所でカップラーメンを頂く。休憩中も余震が続き、状況は安定しない。

翌朝愛知県支部の d ERU を設置し、避難所を立ち上げ、14 時前に宮城県支部へ寄り、23 時病院へ戻る。

考察

状況に応じ DMAT から救護班に転換するのはいい点だと思う。他の DMAT にはない日赤独自のスタイルだ。結果的に新地町で活動が十分に行えなかったが、転換し活動を継続していくのは必要だ。DMAT から救護班に転換する可能性を含んだ準備を今後もしていくことが重要だと思う。

支部や病院と連絡をとることはやはり大切だ。全出動救護班は、定時連絡を必ず行うルールを作ってもいい。他の状況を取得・伝達するだけでなく、連絡をとる・外と繋がっていると感じるだけで、隊員は気持ちの整理ができる面もあるはず。特に初動として行く場合には必要だと思った。(病院に残った職員からのメールは本当に心強かった。うれしかった。ありがとうございました。)

食料の備蓄が無いのは問題だった。途中で買い物をすれば足りる。局地的であればそうかもしれない。別の市、隣の町では通常通りの生活が送られている。しかし広域となると、途中で買い物は不可能だ。まして救護服を着た格好では無理がある。ポット、コンロ等も持たせ、「飯はある。安心しろ。」そう言って渡せる状況が最善だ。規模・種類・状況を自分で検討・判断し準備できるよう、日々精進していきたい。